

土佐町森林ビジョン
～水とくらしを守る森づくり構想～

令和 7（2025）年 2 月
土佐町

目次

第1章	土佐町森林ビジョンとは.....	1
第1節	土佐町森林ビジョンの目的.....	1
第2節	計画の基本的事項.....	2
第2章	土佐町の現況.....	3
第1節	森林に関する社会的状況.....	3
第2節	森林をとりまく状況.....	6
第3節	土佐町の取組.....	10
第4節	森林のこれまでとこれから.....	13
第3章	土佐町の森林の将来像.....	14
第1節	基本理念.....	14
第2節	森林のありたい姿.....	14
第3節	森林に求める役割とゾーン.....	15
第4章	実現に向けた取組の方向性.....	16
第1節	取組の方向性.....	16
第2節	施策の体系.....	18
第3節	基本施策に関する現状とめざす姿.....	19
第4節	アクションプラン.....	24
第5章	実現に向けた方策.....	25
第1節	推進体制.....	25
第2節	進捗管理.....	26

第1章 土佐町森林ビジョンとは

第1節 土佐町森林ビジョンの目的

本町は、四国の中心部に位置し、北部、西部、南部の三方はいずれも1,000メートル級の山岳で囲まれ、町の面積の8割以上を森林が占めています。この森林エリアに降った雨水は、森林の水源涵養機能により地下に蓄えられ、町内を流れる吉野川と地蔵寺川の水源となっています。吉野川の水を貯える早明浦ダムは、多目的ダムとしては貯水量全国4位を誇り、本町だけでなく四国4県の生活用水、農業、工業用水の水源として重要な役割を果たしており、この水源を維持するためにも、町内の森林は重要な位置づけにあると言えます。

一方で、町内の民有林の8割を占めるスギ・ヒノキ人工林では、近年の木材需要の低迷や林業従事者の担い手不足、不在村所有者の増加により、間伐などの定期的な手入れ・管理が困難な状況が続いています。

本町ではこれらの困難を解消するため、これまで施業地の集約化、路網整備、担い手育成（自伐型林業家の育成）に取り組んできましたが、これに合わせ、持続可能な社会づくりやSDGsへの貢献、脱炭素目標などの視点も考慮する必要性が生じていることから、ここで改めて「将来の森林のありたい姿」について、その方向性を示す時期に来ていると考えられました。

このようなことから、本ビジョンでは、50年後の理想的な森林の姿を描き、その姿の実現に向けた長期的な森林づくりについて基本理念と方向性を示しています。本ビジョンによって、関係者との共通認識を図るとともに、その結果として、町内の森林が理想的な森林に近づき、水源の町として本町の持続的で豊かな暮らしが実現されることを目指していくこととしています。

【土佐町の森林で起こっていること】

土佐町の森林が抱えている課題をまとめたイラストを概要版に掲載しました。



第2節 計画の基本的事項

1. 対象とする森林

本ビジョンは、町内すべての森林を対象とします。なお、国有林は国の計画に基づいた管理を行いますが、必要に応じて、民有林と連携して森林整備等に取り組んでいきます。

2. 計画期間

本ビジョンは、50年後の森林のあるべき姿を設定し、今後の基本的な方向を示します。このうち、取組の具体的な内容や指標を示すアクションプランは、社会情勢や技術状況の変化にあわせ、5年単位で見直すものとし、ビジョンの具現化に向けて確実に推進するものとしします。



図 1-1 ビジョン・アクションプランの計画期間

3. 計画の位置付け

本町では、「第7次土佐町振興計画」及び「土佐町まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「土佐町国土強靱化地域計画」、「土佐町SDGs未来都市計画（第2期）」、「土佐町地球温暖化対策実行計画」等の各種計画において、森林・林業のあるべき姿を経済・社会・環境面から位置付けています。本ビジョンは、これら各種計画の取組み等の実現にも寄与するものとしします。

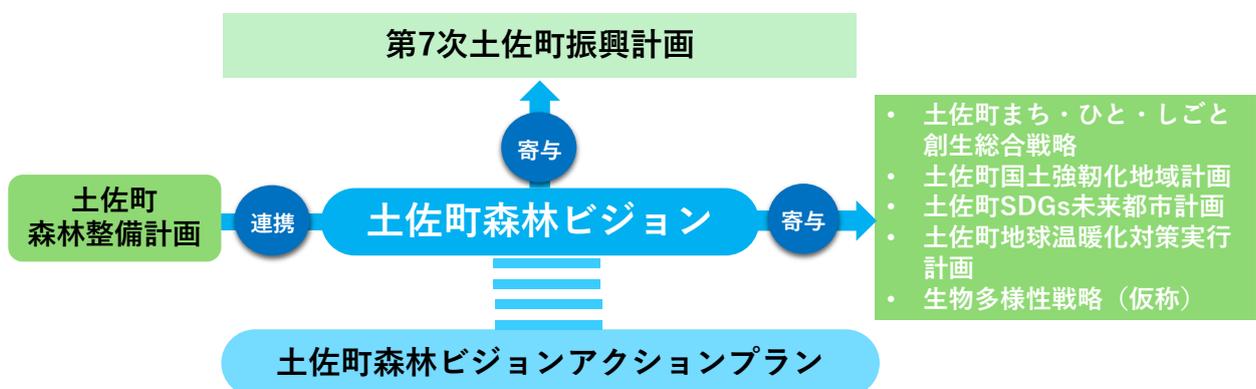


図 1-2 ビジョンの位置付け

第2章 土佐町の現況

第1節 森林に関する社会的状況

1. 土佐町の人口

本町の人口は、令和6年1月時点で3,738人となっており、減少傾向にあります。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2050年には現在の半分近くまで減少することが予測されています。



出典：国立社会保障・人口問題研究所

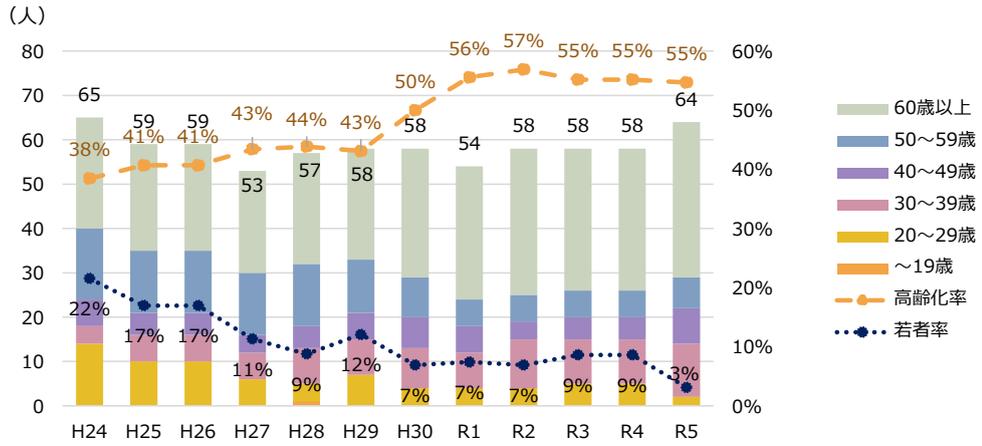
図 2-1 土佐町の人口動態

2. 林業従事者数

全国的に林業従事者数は減少傾向にあり、担い手不足は深刻です。そのような中でも、本町及び高知県は、従事者数の維持ができていますが、約55%が60歳以上と著しい高齢化に直面しています。

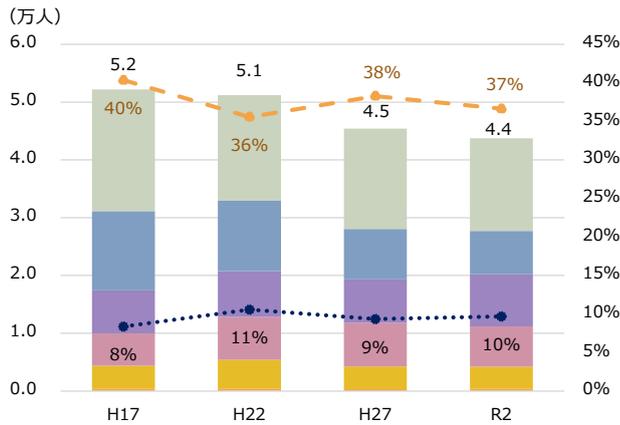
林業は木材価格の低迷から採算性が低く、それだけで生計を立てることが難しい職業とされ、これまで、建設業等、他の職業との兼業での従業が多くみられました。

このようなことから、林業においては、木材需要の拡大やブランド化による高付加価値化、多様なサプライチェーンの構築などを通じ、産業としての安定化を図ることが重要です。また森林は、木材資源だけでなく、水源としての価値や森林空間の活用など多面的な機能を有していることから、これらの価値を関係者が認識し、森林整備への関心を高めていく必要があります。



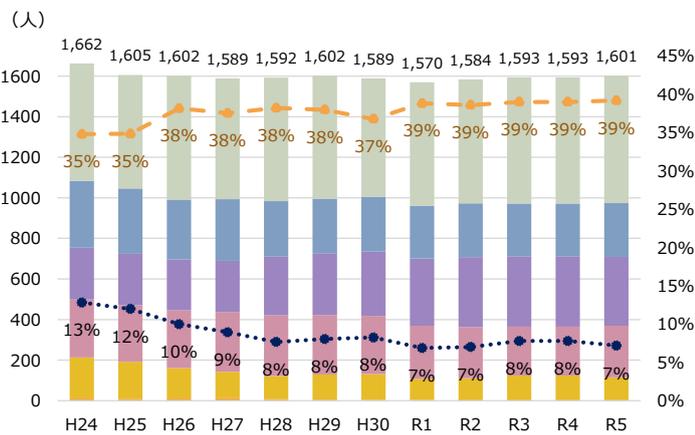
出典：高知県「令和5年度 高知県の森林・林業・木材産業」

図 2-2 土佐町の林業従事者の年齢



出典：国勢調査

図 2-3 全国の林業従事者の年齢



出典：高知県「令和5年度 高知県の森林・林業・木材産業」

図 2-4 高知県の林業従事者の年齢

3. 木材価格

高知県内の木材価格は過去から長期にわたって下落傾向が続いていましたが、令和2年度を境にやや上昇しています。これは世界的に木材が不足した「ウッドショック」の影響で国産材の価格が上昇しましたが、この価格上昇は一時的なものにとどまっているのが現状です。



図 2-5 高知県の製材用素材価格

4. 住宅着工数と木造率

高知県内の新設住宅着工戸数は減少傾向にありましたが、平成21年以降横ばい傾向にあります。一方で、戸建住宅、共同住宅ともに木造率は増加傾向にあります。これは、地域の木材使用に対する国や地方自治体の支援制度の浸透による効果や、新たな木質部材等の製品・技術の開発が進められてきていることによるもので、中高層分野や非住宅分野で木材を利用できる環境が制度や技術面において整えられてきていることも、木造率を上げる要素の一つとなっています。

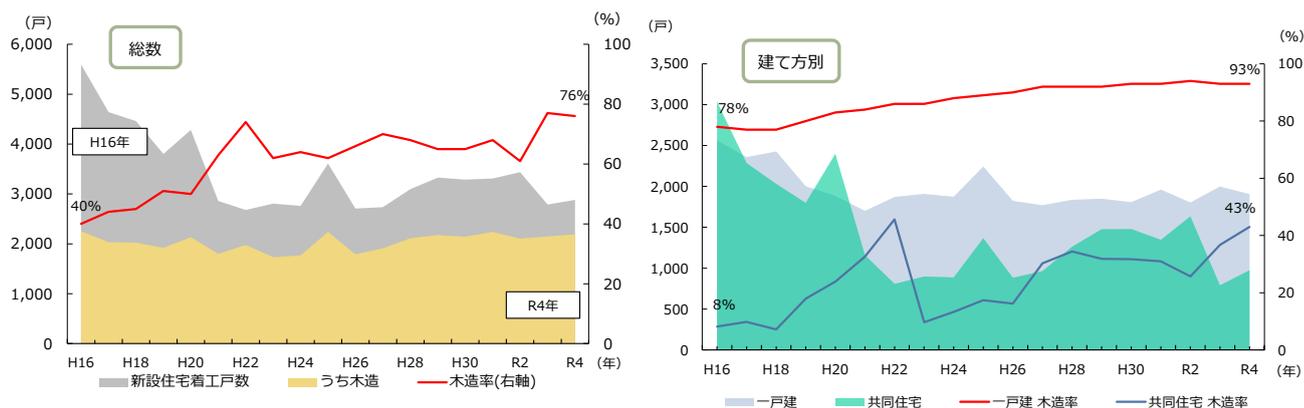


図 2-6 高知県新設住宅着工数と木造率

第2節 森林をとりまく状況

1. 森林の面積

本町の総面積は21,213haで、そのうち森林面積は18,243haと土地面積の86%を占めています。森林面積の17%は国有林であり、83%は民有林となっています。民有林15,203haのうちスギ・ヒノキ・マツ類などの針葉樹面積は12,470haとなっており、民有林面積の83%を占めています。

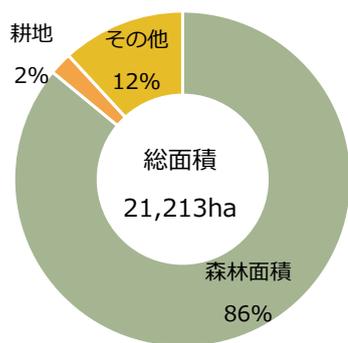
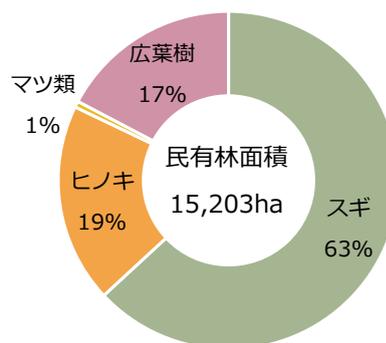


図 2-7 土佐町の森林面積



出典：高知県「令和5年度 高知県の森林・林業・木材産業」

図 2-8 民有林の樹種割合

これらの人工林は、戦後復興時の拡大造林事業により植林されたものが多く、地域によっては、民家に隣接する急斜面に密植されている状況も見られます。



出典：国土地理院「地理院地図Vector」

図 2-9 民家に隣接する人工林

2. 針葉樹の現状

「土佐町森林整備計画」では、町内の森林全域におけるスギの標準伐期齢を 35 年、ヒノキの標準伐期齢を 45 年としていますが、町内の森林の約 8 割を占める「水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林」においては、スギの伐期齢の下限を 45 年、ヒノキの伐期齢の下限を 55 年とするなど、標準伐期齢をプラス 10 年としています。

本町のスギは、11～15 齢級（51～75 年）に、ヒノキは 9～14 齢級（41～70 年）に集中しており、定められた伐期齢の下限を超えた樹木が多くなっています。さらに、急斜面や路網からの距離が遠く、施業が困難な森林の多くは密植されたまま間伐がされていません。このような森林では、光が森林内に入らないことから下層植生の育成がなく、地表の流出や栄養分の流出で樹木の成長力が弱まり、森林の持つ水源涵養機能や土砂流出防止機能が著しく低下しています。森林が雨水を貯留できなくなれば、大雨の際に下流域に大量の雨水が流れ込むといった影響が出る可能性もあり、適切な森林整備が私たちの安心・安全な暮らしと密接に関わっていることを改めて認識する必要があります。



表 2-1 樹種別標準伐期齢

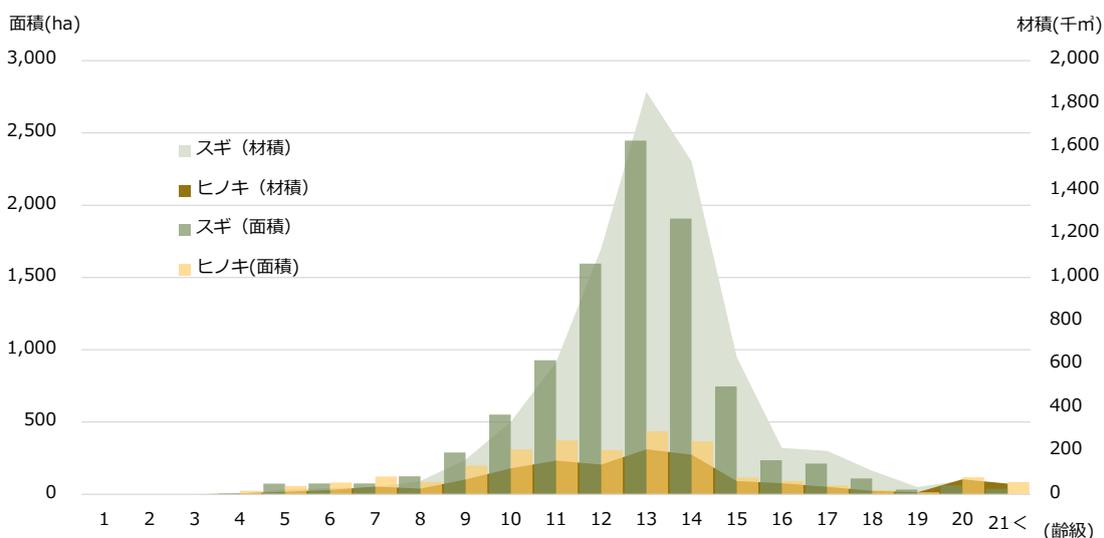
樹種	標準伐期齢
スギ	35 年
ヒノキ	45 年
マツ	35 年
その他針葉樹	40 年 20 年 ^{※1}

※1...早生樹であるコウヨウザンに適用

出典：土佐町「土佐町森林整備計画」

出典：土佐町「土佐町水循環解析基礎調査委託業務報告書」

図 2-10 土壌が流出した森林



出典：高知県森林簿（令和4年度）に基づき農畜林振興課が作成

図 2-11 針葉樹の樹種別齢級別面積・蓄積

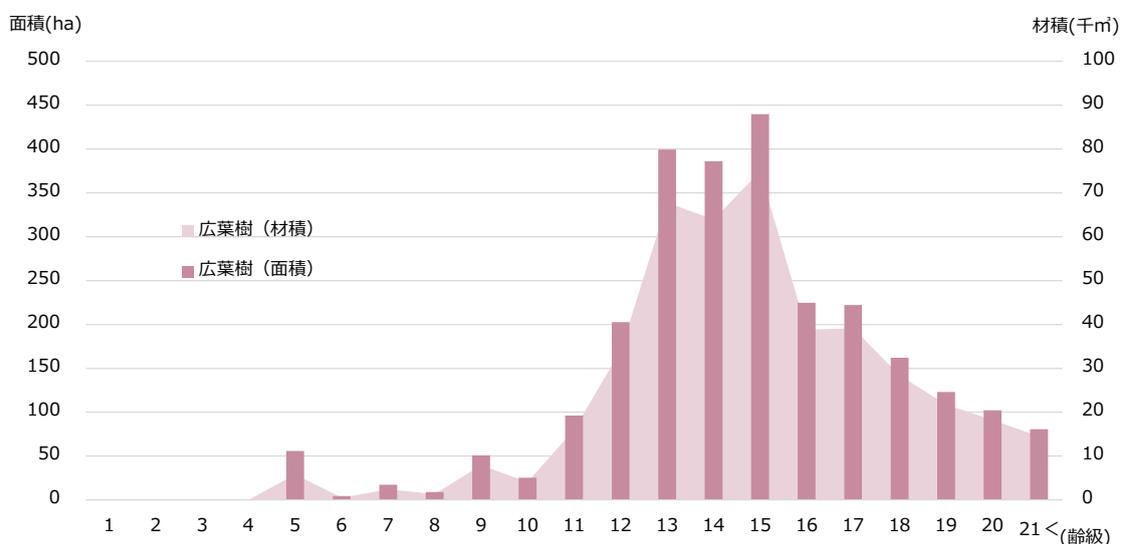
3. 広葉樹の現状

本町の森林は、かつては里山として広葉樹の薪や炭の利用がされていましたが、人々の暮らしが変化の中で里山として活用することが少なくなり針葉樹へと変化してきました。一方で、広葉樹は四季のうつろいを感じられる風景の一つとして楽しまれており、瀬戸川溪谷など広葉樹の多いエリアは、秋の紅葉時期に多くの観光客が訪れる場所になっています。広葉樹の活用は里山としての資源利用の視点に加えて、その景色や空間が、貴重な地域の観光資源ともなっています。



出典：土佐町農畜林振興課

図 2-12 瀬戸川溪谷の紅葉

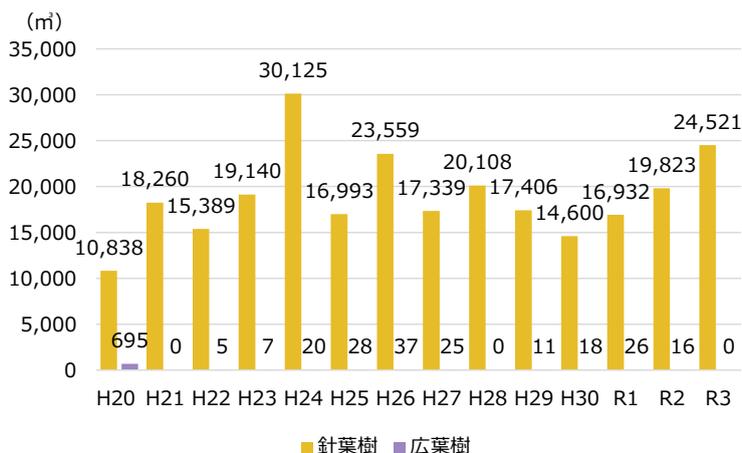


出典：高知県森林簿（令和4年度）に基づき農畜林振興課が作成

図 2-13 広葉樹の樹種別年齢別面積・蓄積

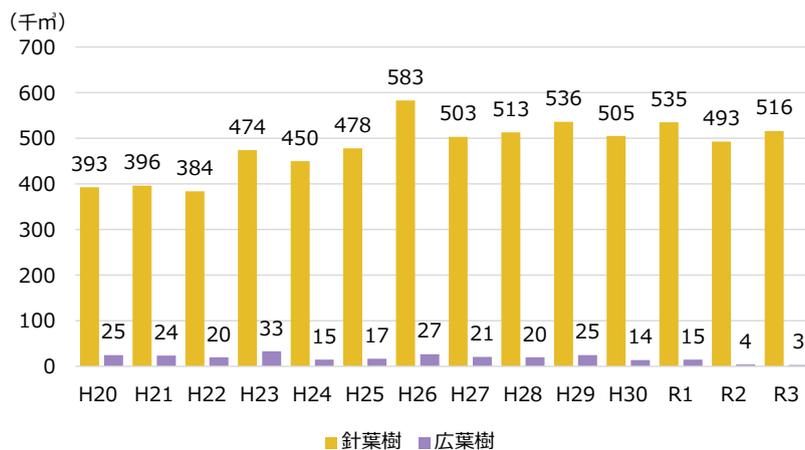
4. 素材生産量

本町の素材生産の対象は、主に針葉樹となっています。針葉樹の素材生産量は、平成 24 年度をピークにして減少傾向にありましたが、平成 30 年度以降は増加傾向にあります。一方、高知県全体ではほぼ横ばいの状況が続いています。



出典：高知県「令和5年度 高知県の森林・林業・木材産業」

図 2-14 土佐町の素材生産量



出典：高知県「令和5年度 高知県の森林・林業・木材産業」

図 2-15 高知県の素材生産量

第3節 土佐町の取組

1. 森林の整備

町内の森林整備の基本的な考えやこれを踏まえたゾーニングを行い、地域に適した森林整備を推進しています。また、整備に関わる補助制度を創出し、林業事業者の作業円滑化の支援を行っています。

手入れの行き届かない森林は、平成17年度からスタートした「協働の森づくり事業」を活用し、本町と環境先進企業、高知県の間で「協働の森パートナーズ協定」を締結し、再生に取り組んでいます。



出典：高知県HP

図 2-16 協働の森づくり事業

2. 意向調査の実施

森林経営管理制度に基づき、町内の森林所有者へ「今後、どのように森林を管理していきたいか」などの意思をお伺いする意向調査を進めています。所有者が自ら森林管理ができない場合は、本町が経営管理の委託を受け、所有者の代わりに森林の経営管理を行うことができます。



出典：土佐町農畜林振興課

図 2-17 意向調査

3. 担い手の育成

高齢化や担い手不足に対して、従事者増加、移住促進、交流人口の増加を推進するため、第1次産業へ本格的な就農等の研修ステップとして、林業インターンシップ等を町内で実施しています。

また、令和元年より森林整備事業で活動する自伐型林家の育成を目的として、森林環境税を活用した地域おこし協力隊の雇用にも取り組んでいます。本町が雇用した地域おこし協力隊の中には、協力隊卒業後に LLP（有限責任事業組合）を立ち上げ、町の林政アドバイザー就任など林業関係従事者として本町に残り活躍する方も出てきています。



出典：地域おこし協力隊note

図 2-18 地域おこし協力隊

4. 木育

地域産材を用いた木製おもちゃを町内世帯の新生児に贈る「木育推進事業」を進めており、子どもたちが小さい頃から木に触れ、そのぬくもりを感じながら心を育むだけでなく、周りの大人たちが木の良さや森林の大切さを感じる機会にもなっています。

また、新生児への木製おもちゃは地域の小学生が木を切るところから関わり、木工職人とともに心を込めて製作しており、多世代のきずなづくりにもつながっています。



出典：土佐町農畜林振興課

図 2-19 木育推進事業

5. 水源保全のあり方の見える化

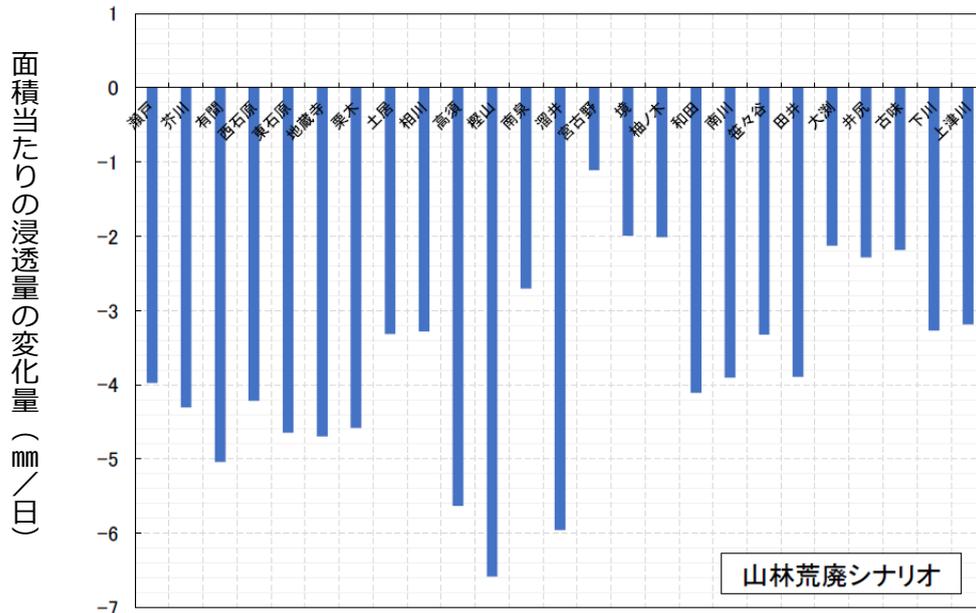
本町は、四国 4 県に水資源を供給する「水源のまち」です。この水源を守るためには、森林の保全や適切な整備が必要ではありますが、高齢化や産業衰退を背景に水源を守る活動が減少してきており、その荒廃が進みつつあります。水源地域の衰退は、将来的には水資源の劣化を通じて利水地域の衰退にもつながる可能性があります。これまで利水地域に対して、水源地域の森林整備の必要性等や理解を深めるための取組みを進めてきたとは必ずしも言えません。



出典：高知大学「土佐町水源保全における産業連関分析を中心とした 効果測定に関する基礎研究（参考資料）」

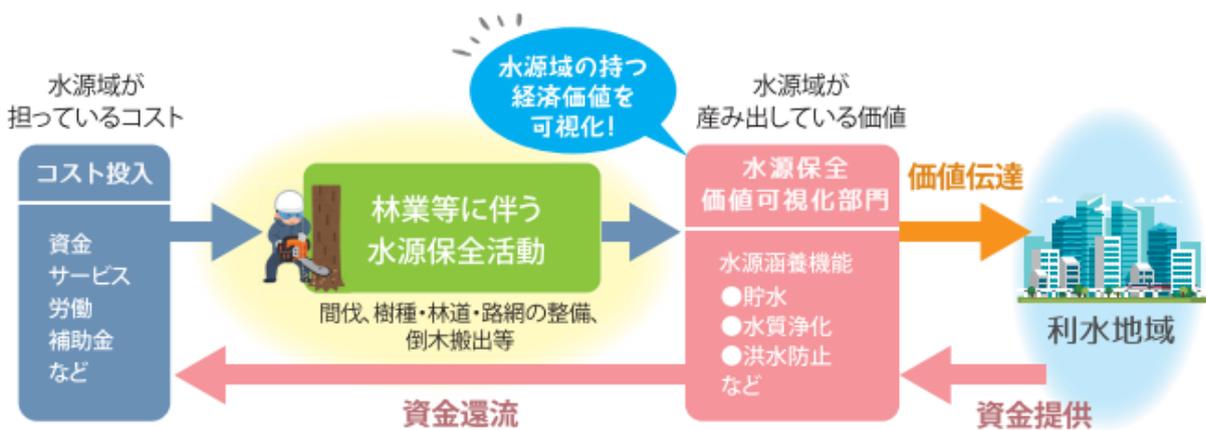
図 2-20 見えない水源の経済価値

そのため、本町では、森林管理やこれによる水源涵養を通じ生み出される産業連関や社会的インパクトを定量的かつ明確に「見える化」するための事業を進めています。本町での森林が水源の維持にどのように寄与しているのかを調査した「水循環解析基礎調査（2021年度）」におけるシミュレーションでは、間伐などの整備がされず荒廃した森林で、雨水の浸透量が減少することが明らかになりました。このような「見える化」は、利水地域との新たなコミュニケーションを構築する足がかりにもなります。



出典：土佐町「土佐町水循環解析基礎調査委託業務報告書」

図 2-2 1 山林荒廃シナリオにおける地域毎の面積当たり浸透量の変化量



出典：高知大学「土佐町水源保全における産業連関分析を中心とした 効果測定に関する基礎研究（参考資料）」

図 2-2 2 水源保全の価値の可視化による効果

第4節 森林のこれまでとこれから

本町の誇るスギ・ヒノキの人工林は先人が植林し、長い年月をかけて大切に受け継がれてきたものです。この恩恵を受けながら、本町の林業は古くから町の基幹産業として地域経済を支えてきました。また、森林が地下に蓄えた水は、日照りが続いても一定量の水を流す水源の役割を果たしています。この森林の水源涵養機能は、適切な森林整備がされると効果を発揮しますが、山が荒廃してしまうとその機能は不安定になり、渇水を引き起こすリスクが増大します。

本町はこれから急激な人口減少に直面することが予測されています。すでに人口減少や高齢化は進行しており、森林を整備する林業従事者も高齢化や担い手不足により森林の整備が難しくなっています。

このような時代の変化を目の当たりにしながら、本来の森林の役割については改めて理解し、町民だけでなく、利水地域と一緒に考えて、あたらしい町の森林の姿を描くことが、求められています。



出典：土佐町農畜林振興課

図 2-23 土佐町の森林

第3章 土佐町の森林の将来像

第1節 基本理念

本町の50年後の森林の姿を以下に設定します。

50年後の森林の姿

「水と緑」と「暮らし」が活きる森林

本町の森林は、公益的機能や資源として地域の暮らしを支えるだけでなく、利水地域の暮らしも支える「水源の森」です。この水源としての価値が、この先も維持・発揮され続ける森林づくりを目指していきます。この姿の実現に向けて、町内だけでなく利水地域と連携しながら森林の整備を進めるため、関係者の相互理解を深めながら森林整備の新たな仕組みの創設などに取組んでいきます。

第2節 森林のありたい姿

森林はその木材がさまざまな用途に使用できるだけでなく、二酸化炭素の吸収機能や水源涵養機能、土砂災害防止機能、保健レクリエーションなどの多様な機能を持っています。一方で、これらの機能を持続的に発揮していくためには、人工林における適切な森林整備が欠かせず、整備できない森林は将来的に自然林に戻す判断も必要になります。

このような背景をふまえ、本町では森林がその機能を発揮し、本町を含めた流域が持続的に森林の恵みを楽しむ森林のありたい姿を目指していきます。

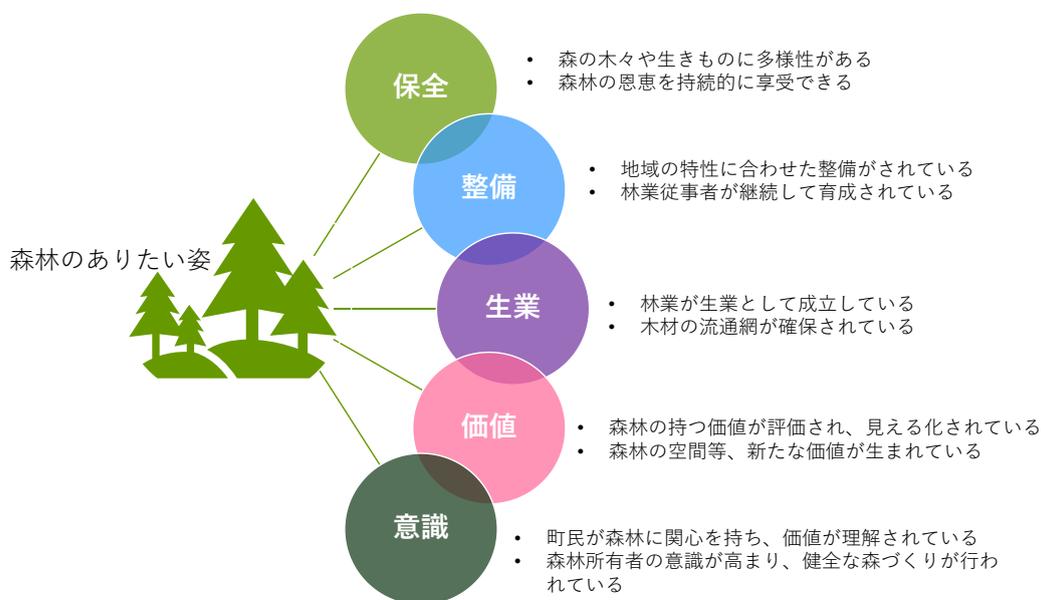


図 3-1 森林のありたい姿

第3節 森林に求める役割とゾーン

森林の将来像の実現にむけて、森林に求める役割を地域の特性を踏まえて下表のとおり整理しました。

表 3-1 森林に求める役割

	エリア	森林に求める役割
森林の区分	森林全般	・水源涵養、二酸化炭素吸収、生物多様性保全、観光・森林レクリエーション活用
	人工林	・持続的な木材生産を行うことによる生業の場
	森林団地	・効率的な木材生産
	天然林	・公益機能の発揮、生物多様性の保全
場所による区分	町有林	・教育、学習の場としての森林 ・里山の暮らしを体験できる場 ・誰もが森林の良さを感じ、利用できる場
	住居周辺	・里山としての利用 ・森林環境教育の場 ・四季を感じられる風景形成
	農地周辺	・水田への水の供給（水源涵養） ・棚田や牧畜の保全、景観の保全
	ダム周辺	・ダムやダム周辺の生活路への土砂流出防止機能 ・発電ダムとともに学習の場 ・ダム景観は観光に活用（四季の景観） ・森林公園の遊歩道等の観光資源活用
	急傾斜・地すべり防止区域	・健全な森林による土砂流出防止

一方で、森林に求める役割は目的によってさまざまであることから、エリアを明確に設定できません。

そこで、本ビジョンでは、森林の利用目的や期待される役割から、「環境保全ゾーン」、「資源利活用ゾーン」、「災害対策ゾーン」に区分し、それぞれに期待される機能が発揮される森林づくりに取り組みます。

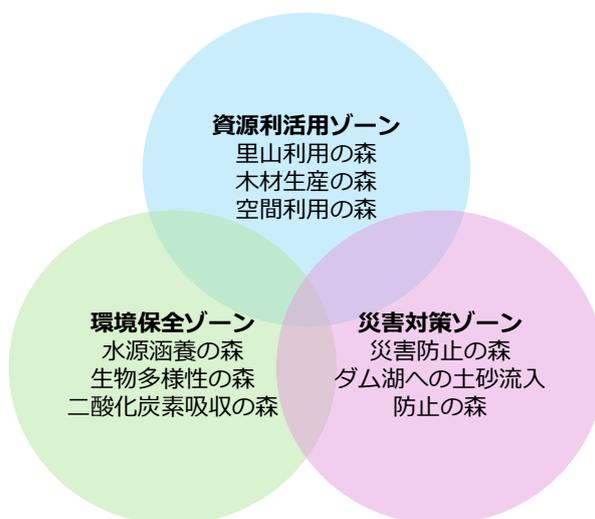


図 3-2 森林の目的別ゾーン

第4章 実現に向けた取組の方向性

第1節 取組の方向性

本町の森林が 50 年後に豊かな資源を維持し、地域がその恩恵を受け続けるためには、それぞれの目的に応じた取組の方向性を関係者が認識することが重要です。そのため、各ゾーンにおける方向性及び基本施策及び、各ゾーンの取組を支える人づくりや仕組みづくり、全てのゾーンで共通して取り組むべき森林整備の推進等について、下記のとおり設定しました。

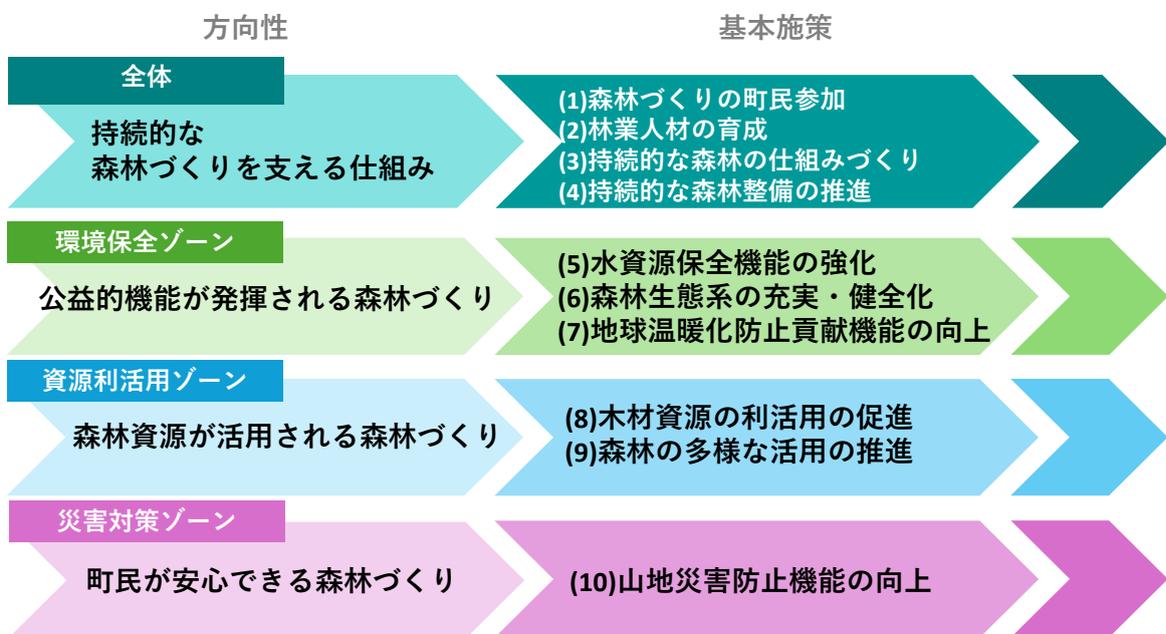


図 4-1 ゾーンごとの方向性及び基本施策

各ゾーンに該当する場所は以下のとおりです。

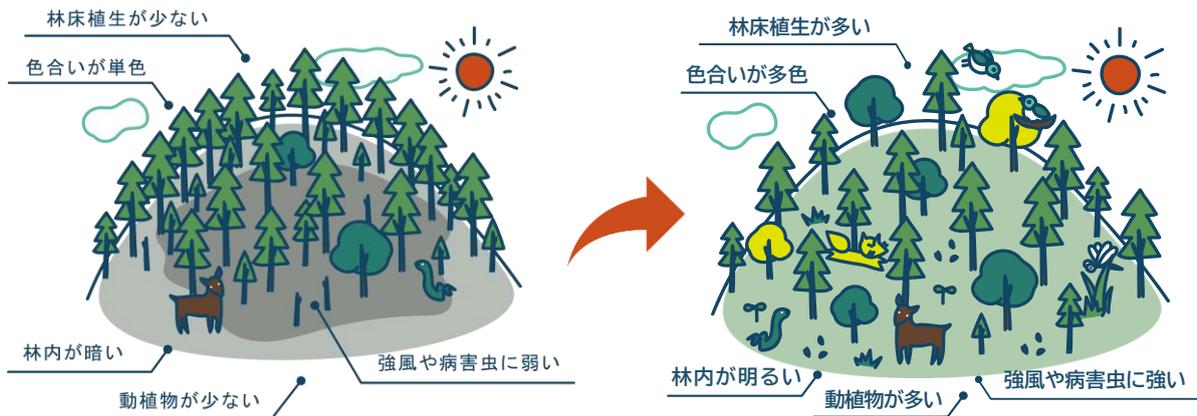
表 4-1 各ゾーンの該当場所

ゾーン	ゾーンに該当する場所
環境保全ゾーン (公益的機能が発揮される森林づくり)	<ul style="list-style-type: none"> すべての森林
資源利活用ゾーン (森林資源が活用される森林づくり)	<ul style="list-style-type: none"> 路網からの距離が短く (200m 範囲等)、傾斜の小さい (傾斜角が 35 度未満等) 施業のしやすい森林 住宅や農地周辺の森林 一般道、路網、遊歩道からアクセスのよい森林
災害対策ゾーン (町民が安心できる森林づくり)	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒区域、地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域に該当する森林 ダム湖周辺の森林

各ゾーンにおける取組の方向性イメージは以下のとおりです。

環境保全ゾーン

森林の担い手不足や木材の価格低迷により、管理を放棄された森林が増えると、本来森林が持つ公益的機能が失われます。そのため、たとえ今すぐに経済価値が出ない森林であっても森林整備を行う必要があります。このゾーンでは、森林の適切な管理を推進し、施業困難な森林は針広混交林に誘導するなど、人手のかからない自然林への移行を進めていきます。



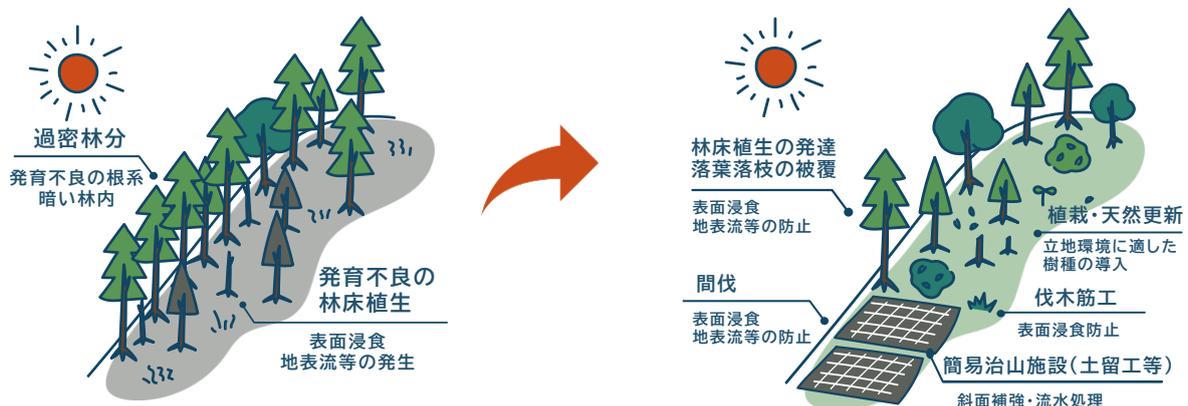
資源利活用ゾーン

このゾーンでは、樹木の間伐や皆伐により素材生産を継続的に続けることで持続的な森林サイクルを構築するとともに、里山林の保全や森林空間の新たな活用を検討します。例えば、民家周辺は広葉樹に移行し、四季を楽しめる景観づくりや森林学習の場にするなど、町民や社会のニーズに合わせて森林資源を活用し、これまでと異なる価値を生み出していきます。



災害対策ゾーン

森林はその根が地中深く張ることで土砂災害を抑制したり、地下に雨水をため込むことで下流域の洪水を抑制したりする機能を持っています。一方で、急斜面で密植された人工林が成長しすぎると、その機能が発揮されません。このゾーンでは、安全を重視し、適切な間伐や皆伐の制限、管理できない森林は天然林への移行を行うことで、土砂災害や土砂の流出を抑制します。



第2節 施策の体系

各ゾーンの基本施策に対する個別施策は下表のとおりです。

表 4-2 施策の体系

基本理念	ゾーン	基本施策
「水と緑」と「くらし」が活きる森林	全体 森林づくりを支える仕組み	(1) 森林づくりの町民参加 (2) 林業人材の育成 (3) 持続的な森林の仕組みづくり (4) 持続的な森林整備の推進
	環境保全ゾーン 公益的機能が発揮される森林づくり	(5) 水源保全及び涵養機能の強化 (6) 森林生態系の充実・健全化 (7) 地球温暖化防止貢献機能の向上
	資源利活用ゾーン 森林資源が活用される森林づくり	(8) 木材資源の利活用の促進 (9) 森林の多様な活用の推進
	災害対策ゾーン 町民が安心できる森林づくり	(10) 山地災害防止機能の向上

第3節 基本施策に関する現状とめざす姿

基本施策に関する現状と課題、めざす姿は以下のとおりです。

全体 -森林づくりを支える仕組み-

(1) 森林づくりの町民参加

現状と課題



本町では、新生児への木製玩具の進呈や山の学習などを通じた木育事業を進めており、特に山の学習では、新生児へ贈る木工玩具の作成等を通じ、水源の町である土佐町の森林の役割やその重要性を伝えています。

一方で町民の多くは、生活様式や本町の産業構造の変化により、過去に比べ森林に触れる機会や林業を身近に感じる機会が少なくなっています。そのため、より多くの町民が森林整備の重要性を認識する機会を創出するとともに、流域住民においても同様に、健全な森林づくりへの協力を得るための基盤づくりが必要とされます。

 **めざす姿：** 森林の大切さ・価値を理解している町民が増えている。

(2) 林業人材の育成

現状と課題



全国的に林業従事者の減少が顕著になっていますが、本町の林業従事者数は大きく減少している状況にはありません。しかしながら、2018年以降、60歳を超える従事者が全体の約半数を占めるなど、担い手の育成は急務となっています。

林業に対する経済的・肉体的に厳しいイメージが、就業に対するハードルと考えられることから、本町で活躍する林業従事者の活動紹介による多様なワークスタイルの紹介や、林業体験などを通じた林業の楽しさやその意義を伝えるための取組が必要とされます。

 **めざす姿：** 林業への理解が進み、関与する町民が増えている。

(3) 持続的な森林の仕組みづくり

現状と課題



本町の森林の多くは人工林であり、定期的な整備が必要とされるものの、担い手は、人口減少とともに減ることが想定されます。

本町の森林の水源涵養機能を含む公益的機能を将来にわたり発揮させ続けるためには、整備のしやすさ等、地域特性に合わせた適切な林型への誘導や、近隣地域との連携体制や、流域地域からの協力による整備体制の強化も必要になると考えられます。



めざす姿：

持続可能な森林づくりを進める関係者間の連携基盤が構築・運営されている。

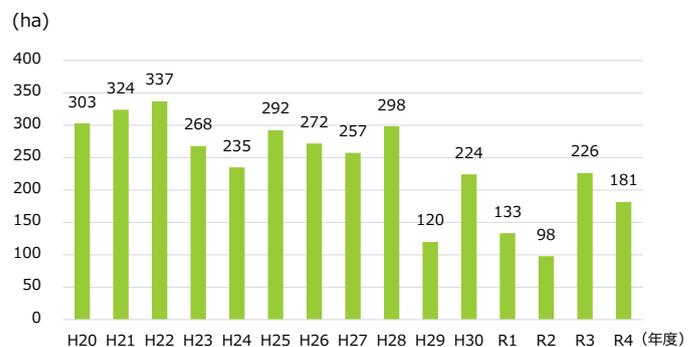
(4) 持続的な森林整備の推進

現状と課題



町内の森林の多くが私有林であり、森林の公益的機能を発揮していくためには、今後の私有林における森林管理のあり方が大きな課題となります。一方で、木材価格の低下や整備費用の増大、所有者の不在村化などにより、手入れされていない森林も散見されています。このため本町では、様々な森林所有者の意向調査を実施するなどし、今後、どのように管理するかを検討しています。

また森林整備の低コスト化や効率化を図るため、施業の集約化や路網の整備、高性能機械の導入など、各種施業支援を行っていく必要があります。



出典：高知県「令和5年度 高知県の森林・林業・木材産業」

図 4-2 土佐町の間伐面積



めざす姿：

森林ビジョンの理解が浸透し、計画的な森林整備が進められている。

環境保全ゾーン -公益的機能が発揮される森林づくり-

(5) 水源保全及び涵養機能の強化

現状と課題



森林の価値は、木材等の生産にみられるような経済的価値だけでなく、水源涵養や生物の保全、土砂災害の防止、二酸化炭素吸収等の多面的な価値を生み出していますが、その価値は長く認識されてきませんでした。そのため、木材価格が低下して以降、地域住民の森林への関心は薄れ、放置される森林が増加しています。森林が放置され荒廃すると、水源涵養を含む多面的機能が著しく低下することは「土佐町水循環解析基礎調査」で示されており、今後、流域地域を巻き込んだ持続的な森林管理の仕組みづくりが求められます。

 **めざす姿：** 森林の水源涵養の役割が地域に理解されている。

(6) 森林生態系の充実・健全化

現状と課題



私たちが自然環境から受ける生活・経済活動の恩恵は「生態系サービス」と呼ばれ、これらは生物種が豊かになるほど安定すると報告されています。本町に見られるようなスギ・ヒノキの一斉林（同一樹種、同一樹齢）は、病害虫に弱いなど一部その機能が脆弱化することや、野生生物の食料や住みかも限られ、一部の野生鳥獣が食べ物を求めて田畑を荒らすなどの被害も発生します。そのため、将来にわたり、町民の暮らしや経済活動を維持するために、今後、施業が困難な森林は、広葉樹等に誘導するなど、生物多様性豊かな森への移行を検討する必要があります。

表 4-3 農林業に関わる鳥獣被害面積及び金額

	R3	R4	R5
被害面積 (a)	762	773	841
被害金額(千円)	3,892	4,741	3,810

出典：高知県鳥獣対策課「鳥獣による農林水産業の被害状況」

 **めざす姿：** 森林生態系の多様化により得られる恩恵が理解されている。

(7) 地球温暖化防止貢献機能の向上



現状と課題

森林は、地球温暖化の要因の一つである二酸化炭素を吸収することから、近年進行する地球温暖化の抑制に寄与しています。しかし、樹木はある一定の樹齢以降は成長が遅くなり、二酸化炭素の吸収機能も低下します。本町の森林は、多くのスギ・ヒノキが標準伐期齢を超えていることから、適切な整備により森林更新を図っていく必要があります。また、皆伐を行った際は再造林を徹底する等、速やかに次世代に引き継ぐ必要があります、そのための苗木の供給や保育などは経済的負荷が大きいことから、必要に応じた支援が求められます。

 **めざす姿：** 森林の計画的な伐採、再造林が行われている。

資源利活用ゾーン -森林資源が活用される森林づくり-

(8) 木材資源の利活用の促進

現状と課題



木材を使うことは、「伐って、使って、植えて、育てる」という人工林サイクルの一部であり、このサイクルが回ることにより森林が更新され、森林更新はその多面的機能の発揮にもつながります。木材の利用は二酸化炭素の固定に寄与し、企業等の脱炭素への関心の高まりから、近年、非住宅の木造化や内装の木質化など新たな動きもみられています。本町においても、町内での公共施設への木材使用だけでなく、建築物以外の什器、土木用材、バイオマス利用など多方面での利用を推進していく必要があります。

また、町産木材を安定的な供給網の形成に向けては、木材の加工や流通を行う事業者との連携体制の構築も必要とされます。

 **めざす姿：** 地域材流通網・仕組みが構築されている。

(9) 森林の多様な活用の推進



現状と課題

本町の森林は、素材生産だけでなく、シキミやサカキ、しいたけなどの特用林産業によっても維持管理がされてきましたが、これらの産業の衰退とともに森林との関係性も薄れていきました。

一方で、近年、キャンプや林道を活用したトレイルラン、マウンテンバイクによるトレイルライドなど、森林空間を活用したあらたな体験活動が注目されてきています。これらは、森林に新たな価値を生み出す原動力となり得ることから、森林空間に対するニーズを把握し、多くの人を訪れたいくなるような魅力的な森林空間づくりの検討や、森林空間を利用したサービスを提供する事業者の支援などが必要とされます。



めざす姿： 森林資源や空間の価値が認識され、利用計画が進められている。

災害対策ゾーン -町民が安心できる森林づくり-

(10) 山地防止機能の向上



現状と課題

森林は樹木がその根系を地中深くに延ばすことや、林床の植生が地表を覆うことにより豪雨時にも斜面崩壊や土壌の流出を防止する機能を持っていますが、間伐などの森林整備がされていない過密な森林では、樹木の幹は細く、根系は発達不良で、不安定な状態となります。そのため、町内の急傾斜地やダム周辺では、山地災害を防止する森林管理を行う必要があります。



めざす姿： 山地災害危険地区の整備に取り組んでいる。

第4節 アクションプラン

本ビジョンは、基本理念、ゾーン及び基本施策は、50年後の森林の姿の実現に向けて設定していますが、別途、アクションプランを策定し、取組の具体的な内容とそれによりめざす姿、指標を定め、社会情勢や技術状況の変化に合わせて、適切な更新・見直しを図ることとします。

※アクションプランは別紙として作成しています。

【町民の理解を促すための取組み】

土佐町森林ビジョンの概要版を作成し、全戸配布しました。



また、子ども向けの絵本版も作成し、土佐町のホームページに掲載しています。

第5章 実現に向けた方策

第1節 推進体制

本ビジョン推進のため、森林・林業に係る有識者で構成される組織「(仮称)土佐町森林づくり協議会」を組織します。協議会に参加する各主体の役割は下表のとおりです。ビジョン実現に向けては、森林関係者や町民一人ひとりが自分の役割を認識し、想いを行動へ移していくことが求められます。

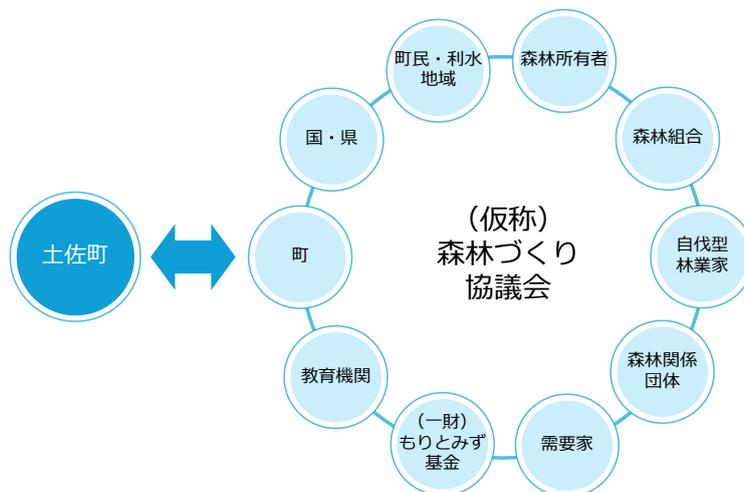


図 5-1 推進組織

表 5-1 各主体の役割

町民及び利水地域	一人ひとりが森林へ関心を持って森林と関り、森林関連イベントなどへの積極的な参加によって、森林の持つ多面的機能への理解や、美しい自然に対する愛着および感謝の念を持ち、町の健全な森林づくりを支援します。
森林所有者	自身が所有する森林へ関心を持ち、森林が地域にもたらす機能や役割が発揮されるよう、所有者自ら、若しくは、専門家へ委託を行うことで、適切な森林整備を行います。
森林組合	森林ビジョンを理解し、森林整備においては森林の多面的機能発揮を考慮した整備を行います。また森林所有者に対し森林への関心を高める働きかけを行います。
自伐型林業家	森林ビジョンを理解し、自伐型の手法により持続可能な森林づくりの実現を支援するとともに、多様な森林整備の在り方について情報発信を行います。
森林関連団体	土佐町の森林が健全に保たれるための活動を行うとともに、森林による水源の維持等、その価値が広く地域に理解されるよう流域関係者に情報提供を行います。
需要家	自身が購入する木材へ関心を持ち、森林の多面的機能発揮を考慮した整備を行っている森林の木材を積極的に購入することで、町の健全な森林づくりを支援します。
(一財)もりとみず基金	本町が実行計画を円滑に推進できるよう支援を行います。また、本町が他町と連携する際はその支援を行います。
教育機関	子どもたちがその成長の過程で、さまざまな森林体験活動を行うことで自然に親しみ、本町の豊かな森林環境について考える機会を提供します。
町	森林ビジョンの実現にむけて、施策の推進や進捗管理、施策に関連する団体等の運営体制の支援を行います。また、様々な課題に対して国や県に協力を求め、施策の着実な実施に努めます。
国・県	本町が実行計画を円滑に推進できるよう支援策を講じ、指導や助言を行います。また、森林関連データの収集・整理を行い、効率的な森林整備の実施に向けた環境整備を行います。

第2節 進捗管理

協議会は、毎年度、ビジョンに基づく取組の進捗を確認します。また、その実績や、社会情勢や国・県の施策の動向等に合わせ、適宜見直しを行います。

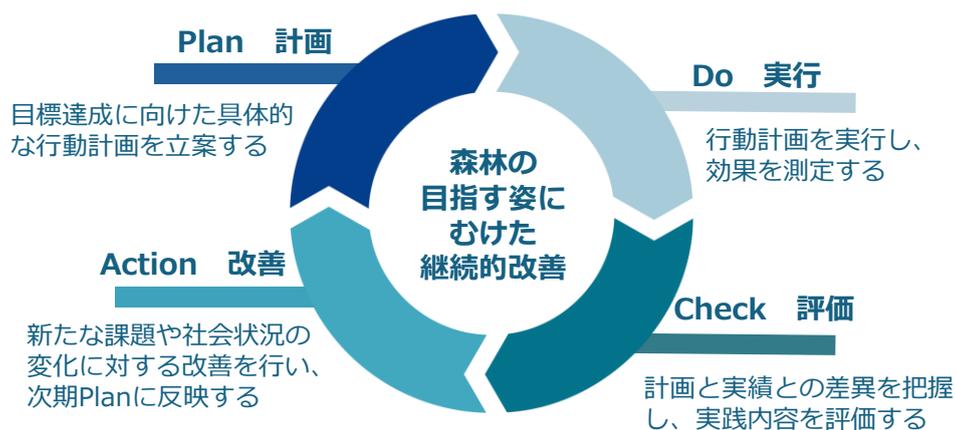


図 5-2 進捗管理

【森林ビジョンの目指す姿】

森林の恵みを流域全体で持続的に受けられる状況として、目指す姿を概要版に掲載しました。



土佐町森林ビジョン

土佐町農畜林振興課

住所 〒781-3492 高知県土佐郡土佐町土居 194

電話 0887-82-0484

本編・概要版・絵本版のサイトは
こちらから

